

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 6月19日現在

機関番号：16201
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2011 ～ 2012
 課題番号：23760578
 研究課題名（和文） 近代都市計画が高松の都市空間形成に果たした役割とその遺産的価値の探究
 研究課題名（英文） Research of the inheritance value and the role which modern city planning played in urban space formation of Takamatsu.
 研究代表者
 西成典久（NISHINARI NORIHISA）
 香川大学・経済学部・准教授
 研究者番号：90550111

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、近代期の地方都市・高松を対象として、法定都市計画が高松の都市空間形成にどのような役割を果たしてきたのかを詳細に位置づけ、これまで顧みられることが少なかった近代期の都市計画がつくりあげた都市空間の歴史的・遺産的価値を探究することである。本研究では、近代都市計画によって形成された都市空間を「都市計画遺産」というキー概念で示し、そうした空間の現代的・保全的活用について考察を行った。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to position in detail what kind of role the statutory city plan has played in urban space formation of Takamatsu.

It searched for historical and inheritance worth of urban space which the city planning of the modern term in this research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：建築学

科研費の分科・細目：建築計画・都市計画

キーワード：都市計画史、復興計画、戦災、都市計画遺産、地方都市、高松

1. 研究開始当初の背景

景観法の制定、歴史まちづくり法の制定に伴い、現在の都市計画では歴史的景観に配慮することが一般化しつつある。しかし、そこで「歴史」とされているものは、主として「伝統的」な町並みや「伝統的」な様式の建物である。その一方で「近代的」な遺産について考えてみたとき、たしかに近代建築、近代化遺産、土木遺産といったキーワードのもと保存措置が取られているものの、近代的な都市空間、あるいは町並みが保存対象として積極的に採り上げられることは少ない。

1919年の都市計画法制定以来、すでに90年以上が経過している。この間、日本の近代都市計画がいったいどのような遺産を生み出してきたのかについて、これまでほとんど議論されてこなかった。そこで本研究では、

地方都市を舞台として近代都市計画が成してきた仕事を歴史的に把握し、現代の都市空間における遺産的価値について考察を深めていきたい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近代期の地方都市・高松を対象として、法定都市計画が高松の都市空間形成にどのような役割を果たしてきたのかを詳細に位置づけ、これまで顧みられることが少なかった近代期の都市計画がつくりあげた都市空間の歴史的・遺産的価値を探究することである。本研究では、近代都市計画によって形成された都市空間を「都市計画遺産」というキー概念で示し、そうした空間の現代的・保全的活用について考察することも視野に入れている。より具体的な目的は以下

の2点である。

- ①明治以降戦災復興期までの高松の法定都市計画事業をリスト化し、それぞれの計画内容や計画主体、事業間の関連性など、法定都市計画で事業化された地区の具体的内容を明らかにすることで、高松都市計画史の全体像を把握する。
- ②高松都市計画史の全体像から、より詳細な空間的レベルへと踏み込み、法定都市計画によって創出された都市空間（道路・広場・公園・港湾といった都市施設単体および複合的な関連性）の形成史を把握し、歴史的・空間的・技術的な視点から再評価を行う。そのうえで、高松の都市空間形成に果たした都市計画の役割とその遺産的価値を探求、考察していく。

3. 研究の方法

初年度は、明治以降戦災復興期までの高松の法定都市計画事業をリスト化し、それぞれの計画内容や計画主体、事業間の関連性など、法定都市計画で事業化された地区の具体的内容を把握する。次年度は、前年度に明らかとなった事業史・計画史から、より詳細な空間的レベルへと踏み込み、法定都市計画によって創出された都市空間（道路・広場・公園・港湾といった都市施設単体および複合的な関連性）の形成史を把握し、歴史的・空間的・技術的な視点からそれぞれの遺産的価値を考察する。

具体的な方法を以下に示す。

- ①明治以降戦災復興期までの史料（文書、行政資料、図面、写真）収集およびリスト化

主要な史料として『高松市戦災復興誌』『高松復興都市計画図』『焼失地域図』『高松空襲戦災誌』などを確認しているが、戦時中あるいは戦後直後の史料は県の公文書館に保存されている可能性があるため、公文書館の協力を仰ぎ、復興当時の史料を発掘していく。また、戦前の史料として『高松港修築工事施行概要』『高松都市計画街路事業概要』などが確認できており、戦前との連続性をみるためにも、これらに類する史料を発掘していく。

- ②明治以降戦災復興期までの法定都市計画事業のリスト化および事業内容の解明

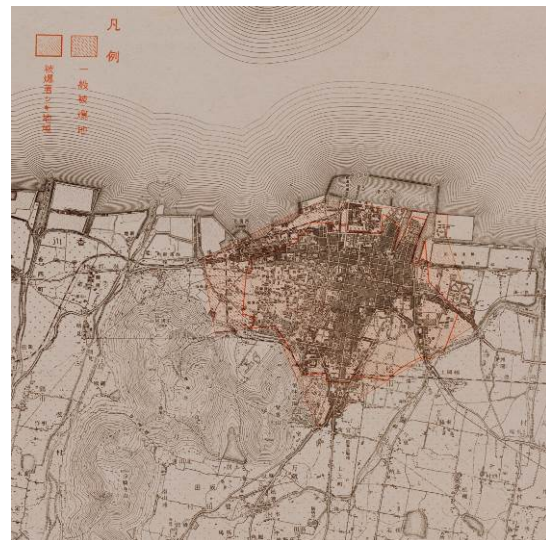
史料収集と同調して、高松で行われた法定都市計画事業のリスト化を進めていく。そのうえで、それぞれの計画内容や計画主体、事業間の関連性など、法定都市計画で事業化された地区の具体的内容を把握する。特に、戦前は内務省の都市計画委員会技師が計画の骨子を作成しており、中央および全国の内務省都市計画委員会の組織との比較から、高松



讃州高松地図 (1757)



戦前高松都市計画街路網図



高松戦災概況図 (1945)

の都市計画を押し進めた組織の位置づけから、高松都市計画の特徴を浮き彫りとしていく。戦災復興計画では、全国規模で計画の大幅縮小が行われており、高松戦災復興計画において計画変更がどのように行われたのか、その変更点や予算、組織に着目して事業内容の解明を行う。

③高松の都市空間形成と法定都市計画事業の関連性把握（図面化）

明治以降の高松の都市空間形成史と法定都市計画事業との関連性を把握していく。明治以降戦災復興期までの高松都市地図を可能な限り蒐集し、法定都市計画事業で整備された地区を図面に書き込み、都市空間形成と都市計画事業の履歴を地図に見える形でまとめる。

④特筆すべき都市空間の形成史を把握

都市計画事業によって創出された都市空間のなかでも、高松都市計画史から俯瞰して、特に重要と判断できる（現在の高松を象徴するような）都市空間を採り上げ、それらの都市空間が当初の都市計画事業からどのような過程を経て実現し、その後どのような経緯を経て現在に至っているかを把握する。



戦災復興による高松駅前広場



戦後の高松丸亀町商店街

⑤歴史的、空間的、技術的な視点で遺産的価値を評価

特筆すべき都市空間の形成過程を踏まえた上で、まず、歴史的な価値を定性的に把握していく。続いて、都市空間のデザイン・人々の利用という視点（空間的視点）から評価し、事業化から都市空間として形成するまでの技術・予算措置・体制（技術的視点）といった視点からその価値を相対化していく。

なお、本研究では、「都市計画遺産研究会」での議論および研究成果を受けて、都市空間の遺産的価値を捉えていく予定である。

⑥高松まちづくり組織に対する情報発信

本研究の成果を高松まちづくり活動へとつなげていくためにも、本研究で明らかとなった都市空間の計画理念やその実現過程を高松のまちづくり関係協議会や行政団体（県、市、歴史資料館）に情報発信していくことを考えている。

4. 研究成果

戦災により高松市街地には戦前の建物がほとんど残っておらず、城下町の町割りも大きく改変されたことから、高松の戦災復興都市計画は能率重視で碁盤目状のつまらない都市に変貌してしまったと、マイナスに捉えられることが一般的であった。しかし、高松駅および高松港を起点として南に延びる高松港栗林線（現在の中央通り）は、中央に楕円の一行植樹を配した美しい広幅員街路（幅員36m）となっており、この街路は戦災という未曾有の災害をバネとしてつくられた、いわば戦災復興遺産とも呼べる近代都市高松を象徴する街路といえるのである。また、旧来の城下町にはなかった、新しい時代の能率美を表現する所産ともいえる。今後の検討課題としては、こうした遺産的価値を有する都市空間の価値を再認識し、それらを市民に伝える方法あるいは活動を検討していきたい。



復興当時の高松中央通り



現在の高松中央通り

研究者番号：90550111

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

西成典久「戦前期高松の都市計画事業に関する研究」『香川大学経済論叢』第 86 巻第 2 号、査読無、頁未定、2013 年 9 月公刊予定

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

西成典久 (Nishinari Norihisa)

香川大学経済学部 准教授